

I. 実践園・実践活動の概要

・実践園の概要(園児数・特徴 など)

多治見市の特徴:多治見市は周りを山に囲まれた盆地で、日本一暑い陶器の町である。明和幼稚園は市の北西にあり昭和52年に開園した。閑静な住宅街の中にある園には5校区から160名の園児が通っている。「わんぱく山」や「明和中央公園」が隣接するという自然環境に恵まれた立地ながら、駐車場がないため車で登園する子ども10分ほどの距離を全員が歩いて通っている。

実践園	対象園児数(H20年度)								実践園の特徴		
	3歳児		4歳児		5歳児		計		定員	保育時間(平日)	国公立
	男	女	男	女	男	女	男	女			
明和幼稚園	24	29	30	24	36	20	90	73	280	5時間	公立

※6歳児は5歳児に含む

・実践活動の概要

＜実践活動の目的＞

- 実践テーマ 「園と保護者が一体となって健やかな心と体を育む」  
～体を動かす意欲が高まる環境構成のあり方～

●ねらい・趣旨

自園の特色である「わんぱく山」という身近な自然環境に親しませ、直接体験や感動体験を深めることにより体力づくりにつなげていく。また、わんぱく山遊び、親子触れ合い遊び、体力テストなどの全ての活動に関して保護者の参加を依頼し、その参加した保護者が、更に他の保護者に情報を伝達しながら「体力向上、運動遊び」の大切さと必要性を広げ、子どもと周りの大人が一体となって体を動かす意欲が高まる環境を整える。

II. 効果のあった実践活動の狙いとポイント

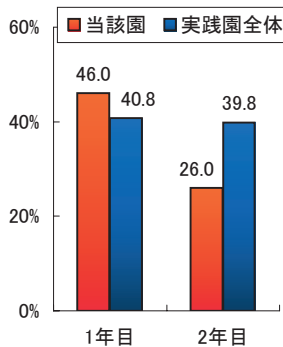
実施プログラム名	わんぱく山遊び	親子触れ合い遊び
趣旨・目的	興味をもって山遊びを楽しむ中で体力の向上を図る。また、保護者ボランティアがその活動を見守りながら、子どもたちの動きを感じ取る。	保護者もふれあい遊びの方法を知ることにより、家庭における体力づくりの意識向上と触れ合いを深める。
対象者	園児全員	年中親子
実施内容及び方法	「わんぱく山」で使うための虫かご作りを親子で行い一緒に山を歩いて山遊びへの興味を深めた。草花遊び、虫探し、木の実ひろい、落ち葉すべりなど、四季に応じた遊びの提供、オリエンテーリング、運動ごっこ、みたてあそび、ビザ作り、ハンターごっこ、木登り、どんぐりそうめん、つるつる坂競争、秘密の基地でごっこあそび、木のブランコ、オナモミダーツ等・「わんぱく山だより」を作成し、明和第1から第6町内63班に回覧、保護者全員と地域など13箇所に配布をして「わんぱく山」での活動紹介とボランティアの募集をする。わんぱくボランティアによる遊びの見守りと山整備の環境づくり。	・広報係が全保護者に事前アンケートをとり、質問事項をまとめて触れ合い遊び後先生との話し合いを持つ。 ・実施時に広報係が遊びの様子を取材し、写真と遊び方を広報誌にまとめ全戸配布して遊びを広めた。
期待される効果	・山に入るのを怖がっていた3歳児も母親ボランティアによる見守りの継続で、山遊びが楽しめるようになった。母親自身にも山の楽しさを感じてもらえた。 ・遊ぶ中で山の中を自在に駆け回れるようになった。体力の向上が感じられた。	・体力向上における保護者の意識が高まった。 ・毎日の徒歩登園が、子どもにも親にとっても色々プラスになる時間と分かり積極的に歩くようになった。 ・子どもが触れ合って遊ぶ楽しさを感じることができた。又、狭い場所でも体を使い遊べるのが分かってもらえた。
検証方法	体力測定の結果向上が見られた。手をつないで山を降りていた子が一人で登り降りするようになった。	広報後アドバイスを受けたことを家庭でも実施して運動会に向け親子で運動する家庭も見られた。逆上がりにも生かし、やれるようになった子が増えた。

### Ⅲ. 実践活動の成果

保護者のスポーツに対する考え方をみると、地域のスポーツ行事等に「全く参加しない」比率が1年目46.0%から2年目26.0%に減少した。また、スポーツクラブ等を勧めている比率が1年目6.3%から2年目15.2%に増え、運動する様子を見たときに「毎日」ほめてあげる比率が48.1%から56.7%に増加した。幼児の遊びのシーンをみると、「3人以上」と遊ぶと答えた比率が20.4%から31.8%に増加した。遊ぶ場所も、「園庭」が42.2%から30.1%に減少する一方、「公園」(18.6%→29.5%)、「家の近くの路地や空き地」(12.4%→16.4%)と地域での遊びが活発になってきている。

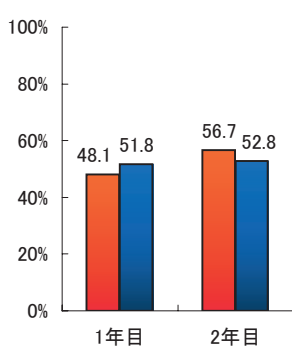
問39. 地域で行われたスポーツや運動の行事・イベントに参加する

◆「全くない」の比率



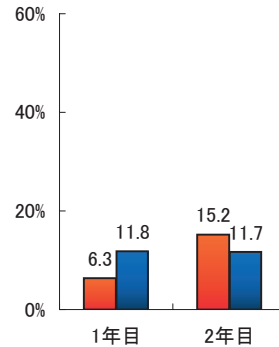
問41. 態度(1)お子様が体を動かす遊びや運動・スポーツをする様子を見たときには、ほめてあげる

◆「毎日」の比率



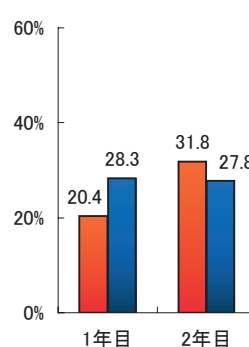
問41. 態度(5)スポーツクラブ、スポーツスクールなど、仲間と継続的にスポーツをする場を勧めている

◆「毎日」の比率



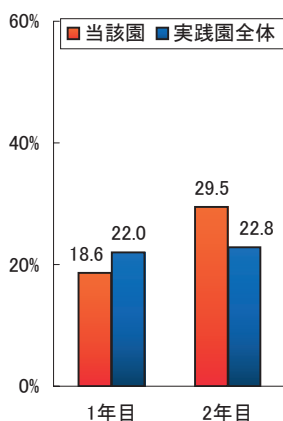
問28. お子様がよく一緒に遊ぶ友達は何人ぐらいですか。

◆「3人以上」の比率

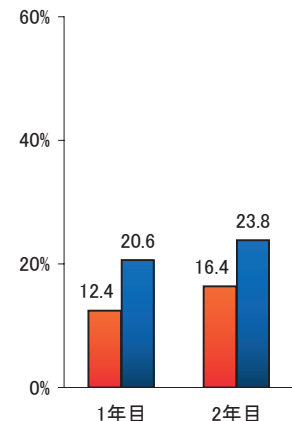


問23. お子様が主に遊ぶ場所(戸外)はどこですか。

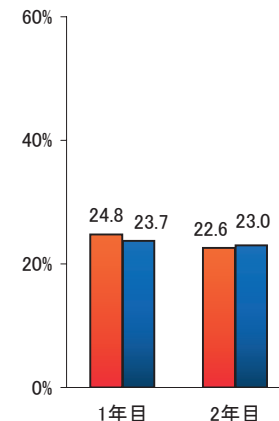
◆「公園」の比率



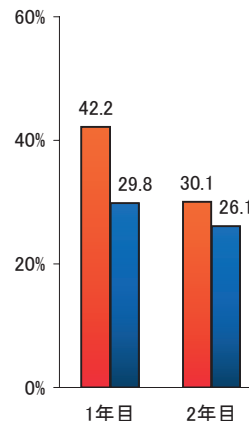
◆「家の近くの路地や空き地」の比率



◆「家の庭」の比率



◆「園庭や校庭」の比率



保護者コメント

やる気を出させるにはどうしたらよいかという質問の回答を聞き、子どもに応じた対応の仕方をする(褒める、いきなり鉄棒に向かわないで楽しむことから、友達とゲーム感覚で、人前でやらないなど)ことで鉄棒が好きになった。



実践園  
担当者コメント

子どもの体力測定の結果や山遊びの様子、触れ合い遊びを園での取組だけにせず、地域や家庭に発信することで、環境面での協力が得られたり、積極的な意識付けが図れた。



高等教育機関  
担当者コメント

可能な限り、体力作りのためのプログラムには保護者ボランティアの参加を呼びかけ、全ての活動のサポートをして頂いた。体力テストの補助では、参加した保護者から「こんなに動きに個人差があるとは思わなかった」などと驚きの声が多かったが、参加したことにより運動への意識が高まっていた。更に、参加者が参加できなかった保護者に対しても様々な情報、話題を広めることで関心の和が広がっていった。「わんぱく山遊び」、「親子触れ合い遊び」を通して更にその関心は高まりを見せ、ついには保護者ボランティアの有志がわんぱく山遊びの様子や家庭でも簡単にできる親子遊びなどの情報を記載した手作り便り「チャイム」を発行し、多くの情報が各家庭に広がっていき、日に日に山遊びを見守るボランティアも増えた。ここまでの保護者の関心の広がりは想像以上であった。このような関心が高まった中で、大学教員、地域の体育指導者、教育委員会が中心となった講演会も開催したことは効果的であった。今回の取組で、決して無理強いすることのない保護者の自主性に任せたボランティアの部分的な参加は、情報や関心を高める上で非常に効果があると思われた。(連携機関: 岐阜大学教育学部)

## I. 導入計画の立案

### ・実施計画・目的

- 活動を通して保護者が自らバックアップする環境をつくり、コミュニティの参加度を高める。  
(山遊びを事例として、どのように保護者の関心を盛り上げていくか)

### ・準備作業(※必要な設備・作業人員 等)

必要な設備	PC、プリンター、デジタルカメラ
必要な作業人数	活動時 保護者 2~5人(多すぎるのもよくない) 設計・準備をする責任者 2人(担任以外が理想)

### ・全体的なスケジュール(※おおまかなスケジュール)

- 4月 園の目標~「わんぱく山」遊びで体を動かす意欲のある子を育てます~体作りがいかに大切かを知らせる。
- 4月 父母との連携の必要性、父母の会のルールの徹底を図る。(徒歩登園、安全ベスト着用による全員交代での見守り登降園)
- 6月 山遊びの楽しさや怖さ、徒歩通園の良さを啓発した上、親子で一緒に山を歩いたり道路を歩いてもらう。
- 6月 「わんぱく山」便りを年5回作成し、保護者・地域に発信する。ボランティアの募集も行う。  
以後毎週水曜日、行事ごとに参加を呼びかけ、山遊びを通じた心と体作りを行う。取組の結果を知らせる。

## II. 導入手順

### ステップ1: 実施計画の立案

核となる保護者を交えた遊び(ここでは山遊び)の実施計画を決めます。現在の幼児の数や発育度合いに応じて、どこでどんな遊びをしたいのかを決めます。その遊びをするためには、大人がどの程度必要なのかを考え、園スタッフは何人割けるのか、保護者及び地域の方には何人バックアップしてほしいのか、を立案します。保護者の参加確率を増やすため、全ての開催日を決定しておき年初に告知します。

### ステップ2: 事前準備~地域への声かけと資材手配

行事は実際に開始する1ヶ月前くらいに園周辺の方などに個別にお声かけをします。実際に山に入るにあたって、山を熟知している地域の方に子どもたちに適した場所や危険な場所(ハチなど)等のアドバイスをいただきます。園スタッフは事前に、幼児の足でどの程度時間がかかるのか、転倒などの危険性がないか等、コースを下見しておきます。

### ステップ3: 頭での理解~自分のこどもの成長に必要にしたい「遊び」

園行事として保護者に説明会・講演会を行い、何のために山遊びをするのか、子どものためにいかに大切にしたい遊びかを保護者に啓発します。日頃園に送迎するお母さんだけではなく、あまり園に来ることができないお父さん等にも「是非この遊びを自分の子どもにさせたい!」というモチベーションをもってもらえるようにします。



### ステップ4: 活動当日~体験する

保護者も参加して活動を行います。園側が進行管理を行います。保護者自身も楽しんでもらい、活動の意義を体感してもらいます。活動の後に保護者と話す時間を設け、なにがよかったのか、こんな遊びもできたらいいのに、等の感想を聞きます。

### ステップ5: フィードバック

子どもたちと保護者が楽しんで遊んでいる写真等を、参加・不参加を問わず全ての保護者にニュースレター等でフィードバックし、関心を高めます。地域の方にも、フィードバックします。

## II. 導入手順(つづき)

### ステップ6: 2回目の活動～実行する

前回の保護者の意見を十分に盛り込んだ活動内容とします。活動の主役を保護者になるようにします。主体性を保護者に動かすことで、サポート体制をしっかりとることが大事だ、という気づきが生まれるようにします。活動の前には、幼児たちに見守りの方を紹介し、幼児からお願いをすることと、終わった後にはお礼をいい、子どもたちに感謝の心を育てます。保護者は子どもの様子を見て安堵されたり役立つ喜びを感じることが出来ます。

### ステップ7: 保護者からの情報発信～情報誌の発行と地域回覧板の有効活用

年に数回、回覧板を通じて園の情報を地域の方にお伝えする仕組みを構築しました。山遊びに関する情報も回覧板に掲載し、保護者のボランティアとともに地域の方のボランティアを募集し、お手伝い頂きました。他園で実施する場合も、保護者だけでなく、地域の方にも参加を呼びかけるツールとして、回覧板の活用は非常に良い物だと思います。

### ステップ8: 3回目以降の活動～継続した協力体制の維持

#### 保護者が作成した情報誌の見本

講演会で学習した内容をベースに、自分たちの行った活動を紹介するような内容です。



6/10に行われた「親子ふれあい遊び」の内容を詳しくご紹介します。

テーマ：体を動かす心地よさを感じよう！  
 幼児期は、神経の発達が一番活発です。この日に紹介された運動を行うことで、神経に刺激を与え、体力の向上につながります。大切なのは、「家族みんなと一緒に楽しく！！」遊びの中に取り入れてくださいな！

豆知識1～幼児期が重要な力キ～  
 昨今の産後園こけら子どもたちの体力低下には、幼児期の経験や生活習慣の継承が大きいことが明らかになっています。しかし、この幼児期を健全に過ごすことによってその後の子どもたちの成長が決定すると言っても過言ではありません。その意味で、幼児期は非常に重要であると言えます。～ 山だより～

**1** ジャンプ運動  
親と子の協調性を養う運動

→ 三半規管を鍛え、目の運動にもなり、バランス感覚が良くなります！

**ジャンプ運動**

- ジャンプしながら手をたたく
- 手をたたきながら、足を閉じたり開いたりする

**親と子の協調性を養う運動**

- ジャンプしながら親の手をたたく
- 親は座ったままで、子供と手をつないで高くジャンプさせる
- 手をつないだまま、親のひざの上でジャンプ
- 両手をつないだまま親の腕をまわる

→ 一周したときに腕が交差しないように考え

### 質問にお答えします！

たくさんの質問をいただき、ありがとうございました。皆さんからの質問は、講座の中で運動機能の説明と一緒に答えてもらいながら進めていただきました。又、その後に全部ではありませんが、質問に答えて頂くことができ、河野先生には感謝すると共に、少しでも皆さんの参考になればと思っています。

**(Q1)** 小さいうちに筋肉をつけすぎると、背が伸びにくいと聞いた事がありますが、本当でしょうか？

**(A1)** 負荷の強くなるトレーニングは避けましょう。(ダンベルとか) 関節のまわりに筋肉がついて、骨が伸びようとする力をつぶしてしまいます。

**(Q2)** 水泳を習っている子が多いですが、習ったほうが体力向上には良いのでしょうか？

**(Q12)** 幼児期に「これだけできるようにしてあげたいこと」はありますか？

**(A12)** 今回の運動は年齢にこだわらず、小学生もやれます。言葉のかけ方や導き方がちがうだけ。幼児期は思いっきり遊んで神経に刺激を与えよう！

**(Q13)** 縄跳びの縄の長さの調節は何を基準に決めたらいいですか？

**(A13)** 縄のセンターを踏んで、持ち手が胸の高さになるようにしましょう。

<最後に・・・>

広報委員会では、チャームで子供たちの体力向上をテーマに、為になる話や講座を父母の会会員に伝える取り組みをしていきます。今回の親子ふれあい遊びも、多くの親さんに伝えることが出来たら…という思いから広報委員会で取り組んでみました。ぜひ遊びの中に取り入れ、子育てに活用してください！！

## III. 導入にあたっての留意点(※プログラム実施上のコツ・注意点・リスク管理 等)

コツ	何のために山遊びをするのか、子どものためにいかに大切にしたい遊びかを保護者に啓発し、一緒に参加できる機会をつくることで楽しさもわかる。我が子の様子を見たいために遊びの見守りボランティアに参加することから始まるが、自分の子以外の子にも目を向けられるように変わってくるし親自身の喜びにつなげることが大切。
注意点	ボランティアを募集しますの呼びかけだけでは集まらない。「いつ、何時から何時まで、どんなことを！」とはっきりさせて呼びかけると都合のつく方も出てくる。
リスク管理	山遊びには危険がつき物で、定期的な山点検と山整備は欠かせない。職員だけではやれず父母の会やボランティアの力を借りられるよう働きかける必要がある。幼児に対し、山の害虫(ムカデ、蜂、蚊、毛虫など)や蛇などを写真で知らせたり、発見や駆除にも努めます。